

(別添様式1)

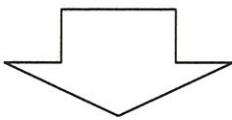
中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

管内市町村 管内JA	管内市町村：本山町、大豊町、土佐町、大川村 管内JA：JA土佐れいほく			
産地の特徴 主な園芸品目	産地の特徴： 嶺北地域は四国中央部に位置し、標高250m～900mに山間地に点在する棚田を活用した稲作、夏秋野菜、畜産等による複合経営が営まれています。地域では、吉野川源流域の豊かな自然環境を生かした農業を推進しており、「れいほく八菜」、「土佐天空の郷」などのブランド化にも取り組んでいます。 主な園芸品目：米ナス（雨よけ189a、露地24a）、三色ピーマン（136a）、シットウ（雨よけ110a、露地44a）			
人員配置 平成26年度 12名 平成27年度 11名 平成28年度 11名	平成29年度職員総数 11名（うち実務経験が3年未満の職員 1名） <table border="1"><tr><td>農業改良普及所長 1名</td></tr><tr><td>地域営農担当 チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)</td></tr><tr><td>産地育成担当 チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)</td></tr></table>	農業改良普及所長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)	産地育成担当 チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)
農業改良普及所長 1名				
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)				
産地育成担当 チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)				
普及活動の 進ちょく管理	・総合3課題は、毎月チーム会を開催し、チーム員で情報共有と進捗管理を行っています。 ・個別6課題は、四半期ごとに（7月、10月、12月、2月）職員会の中で情報共有、進捗管理を行っています。 ・各課題の取組については、普及指導活動記録や会議録で隨時情報を共有しています。			

職員の資質向上 の取組状況	<p>●職場研修（普及活動に関連する内容を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年職員に意向を聞き普及指導活動に役立つ職場研修を実施しています。 また、人事課の派遣研修を活用し、民間講師による全員研修も行っています。 <p>①嶺北林業振興事務所、中央家畜保健衛生所嶺北支所、嶺北農業改良普及所の業務について</p> <p>②効率的な仕事の進め方について（人事課派遣研修）</p> <p>●新任者を対象にしたOJT（概要を記載）</p> <p>（新任者：採用1年目　野菜部門副担当、作物部門副担当）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にトレーナーや野菜・作物部門担当によるOJTを実施しています。 ・毎月の職員会を活用し、新任者が新任者研修実施計画書をもとに活動報告を行い、窓口専技を含む職員全員で助言指導を行っています。 <p>●国段階研修（平成28年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="417 968 1270 1013">研修名</th><th data-bbox="1270 968 1394 1013">人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="417 1013 1270 1058"></td><td data-bbox="1270 1013 1394 1058">名</td></tr> <tr> <td data-bbox="417 1058 1270 1119"></td><td data-bbox="1270 1058 1394 1119">名</td></tr> </tbody> </table> <p>（参考）平成27年度の参加人数　2名</p> <p>●県段階研修（平成28年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="417 1276 1270 1321">研修名</th><th data-bbox="1270 1276 1394 1321">人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="417 1321 1270 1366">普及指導員派遣研修（先進技術習得コース）</td><td data-bbox="1270 1321 1394 1366">1名</td></tr> <tr> <td data-bbox="417 1366 1270 1469">自主企画研修 ・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討</td><td data-bbox="1270 1366 1394 1469">1名</td></tr> </tbody> </table> <p>（参考）平成27年度の参加人数　3名</p> <p>上記の他に、県内専門技術高度化研修などへ参加</p>	研修名	人数		名		名	研修名	人数	普及指導員派遣研修（先進技術習得コース）	1名	自主企画研修 ・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討	1名
研修名	人数												
	名												
	名												
研修名	人数												
普及指導員派遣研修（先進技術習得コース）	1名												
自主企画研修 ・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討	1名												
その他	<p>●ICTの活用について</p> <p>農家のほ場やハウス位置の確認、台風被害調査、病害虫検索等にタブレット型PC（1台）を活用しています。</p>												

評価対象課題の実績（28年度）及び計画（29年度）の概要

所属名	中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所														
課題名	有機栽培トマト農家の経営安定														
取組期間	平成25～29年度	産業振興計画 課題分類	I②、II③、III①②、 IV①②、VI①												
対象	大豊町有機栽培トマト農家（9戸）（トマト栽培面積107a、うちミニトマト69a）														
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニトマトの夏秋栽培では梅雨期の日照不足、盛夏期の高温乾燥、秋期の低温・低日照と気象条件に大きく左右される。ミニトマトの有機栽培において、平成25～26年度に作成した栽培指針をもとに、各生育ステージの栽培技術を体系化し、収量や品質を安定させる。また、生産者間での収量格差が10a当たり3～6tと大きいため、安定生産技術の向上を図る。 ○有機栽培トマトの生産者を中心に、栽培技術の相互研さんと有利販売を目的に組織を設立し、その組織活動を支援する。栽培技術の向上、経営改善、有利販売に向けた販路の開拓を目指す。 														
平成28年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○10a当たり平均収量は前年の3.8tから4t以上と増加したが、5t以上は1戸にとどまった。 ○各生育ステージの栽培技術の体系化に向けたデータを収集した。その結果を示すことで、各自が施肥管理技術の重要性に気づいた。 ○平成28年5月に、有機栽培トマト生産者10戸により「大豊とまと」が設立された。設立後、先進地等視察（2回）、勉強会（5回）、役員会（1回）の開催を支援した。 														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th>項目</th> <th>現状（H27）</th> <th>目標（H28）</th> <th>実績（H28）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミニトマト 5t/10a 達成農家数</td> <td>1戸</td> <td>4戸</td> <td>1戸</td> </tr> <tr> <td>グループ活動支援（定例会）</td> <td>0回</td> <td>6回</td> <td>8回</td> </tr> </tbody> </table>				項目	現状（H27）	目標（H28）	実績（H28）	ミニトマト 5t/10a 達成農家数	1戸	4戸	1戸	グループ活動支援（定例会）	0回	6回	8回
項目	現状（H27）	目標（H28）	実績（H28）												
ミニトマト 5t/10a 達成農家数	1戸	4戸	1戸												
グループ活動支援（定例会）	0回	6回	8回												
平成28年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ○10a当たり収量の増加について (個別巡回、現地検討会 4～10月) 栽培指針をもとに各生育ステージのかん水、施肥管理、病害虫防除等のポイントについて技術支援した。 (植物体・土壤分析 4～10月) 分析結果をもとに施肥管理技術の改善を図った。 ○組織化について (個別巡回) 組織化に向け、規約や活動計画の作成等を支援した。 (先進地視察、勉強会 4～3月) 組織設立後、活動を支援した。 														



平成29年度の主な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培指針をもとにした巡回指導、各ステージの植物体・土壌分析による施肥技術の改善等により、栽培技術が向上する。 ○生産者間の情報交換、先進地(岐阜県トマト農家)視察研修、緑肥の輪作による有機物施用と土壌病害虫防除等の実証、消費地動向調査等の開催により、組織活動が強化する。 										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #cccccc;">項目</th><th style="background-color: #cccccc;">現状（H28）</th><th style="background-color: #cccccc;">目標（H29）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミニトマト 5t/10a 達成農家数</td><td style="text-align: center;">1戸</td><td style="text-align: center;">4戸</td></tr> <tr> <td>組織活動参加率</td><td style="text-align: center;">75%</td><td style="text-align: center;">90%</td></tr> </tbody> </table>	項目	現状（H28）	目標（H29）	ミニトマト 5t/10a 達成農家数	1戸	4戸	組織活動参加率	75%	90%	
項目	現状（H28）	目標（H29）									
ミニトマト 5t/10a 達成農家数	1戸	4戸									
組織活動参加率	75%	90%									
H29年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ○各生育ステージにおいてポイントとなるかん水や施肥管理、病害虫防除等について、個別巡回や現地検討会等を通じて技術向上を支援する(4~10月)。 ○施肥技術改善を図るため、植物体・土壌分析を実施する(4~9月)。 ○組織活動の強化に向け、現地検討会、先進地視察調査、消費地動向調査等を支援する(4~3月)。 										

所内体制	<ul style="list-style-type: none"> ○産地育成担当が栽培技術について、地域営農担当が経営改善と担い手の育成について連携して対応。 		
連携推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○大豊町では各種支援制度や農地等の情報について、JA土佐れいほくでは部会活動やハウス整備等について支援し、関係者で組織する大豊町営農連絡会等で情報共有した。 		
<p>The diagram illustrates the integrated support system for farmers. At the top is a dark oval labeled "対象農家" (Target Farmers). Below it is a horizontal bar labeled "活動支援" (Activity Support). Two arrows point from "大豊町" (Ogata Town) and "JA土佐れいほく" (Tosa Reihoku Agricultural Cooperative) towards the "活動支援" bar. Another arrow points from "普及所" (Extension Office) towards the same bar. A bracket at the bottom indicates "産地育成担当と地域営農担当が連携" (Cooperation between Crop Production Management Staff and Regional Agricultural Management Staff). The entire process is overseen by the "大豊町営農連絡会(月1回)等での情報共有・進捗管理" (Information sharing and progress management through monthly meetings like the Ogata Agricultural Cooperation Network).</p>			

有機栽培トマト農家の経営安定



中央東農業振興センター
嶺北農業改良普及所

- 1 取組の背景
- 2 対象
- 3 普及活動開始に至る過程と目的
- 4 活動体制
- 5 普及活動の目標(数値)
- 6 普及活動の内容
- 7 活動の結果及び成果
- 8 残された課題
- 9 活動実績の周知(広報)

1 取組の背景

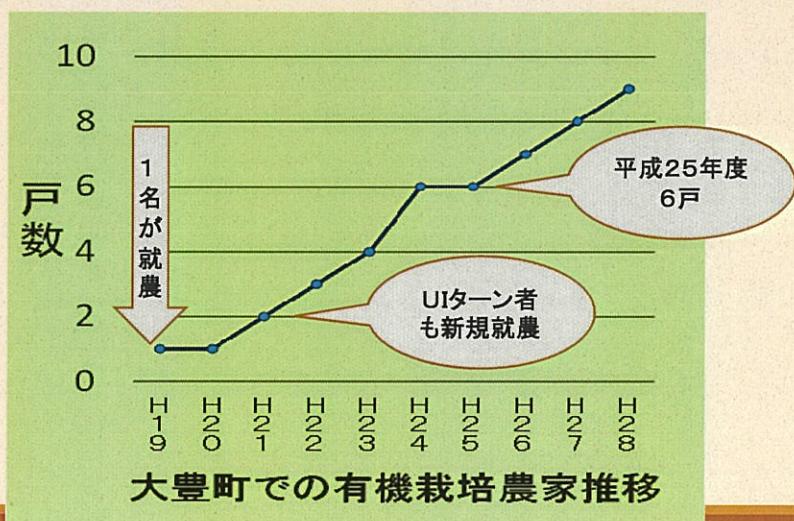
大豊町の概況

- ◆四国山地の中央部に位置する中山間地域
- ◆耕地は、標高250~800mに散在
- ◆農業経営の中心は水稻、夏秋野菜、ユズ、山菜など
- ◆高齢化が急速に進んでいる(県内で最も高い高齢化率)



平成25年度当初の背景

- ・平成19年度「有機のがっこう土佐自然塾」卒業生1名が大豊町に就農。当初、少量多品目野菜の有機栽培を行っていたが、所得確保に限界を感じ、普及所の助言もあり、ミニトマトに集約。
- ・平成21年度末からは、「有機のがっこう土佐自然塾」卒業生以外のUIターン者も新規就農。



2 対象:大豊町有機栽培トマト農家

平成25年度:6戸 → 平成28年度:9戸

特徴

- ・ほとんどが、農外からの就農。農業経験少。
- ・ミニトマト有機栽培開始の理由:「有利販売ができる」、「小面積でも収益多く、夏期冷涼な気候を活かせる」など様々
- ・20~40歳代の若者が中心。地域への思い強く、意欲的。
- ・出荷は、個人毎に販売先が異なる。
(H25時点では、JA系統への出荷は無)



3 普及活動開始に至る過程と目的

取組のきっかけ

平成24年度に「裂果が多くて、収量が不安定」という有機栽培農家からの相談→それまでは、要請対応

問題点

有機栽培農家は、ミニトマトを経営の柱としていたが、栽培技術が体系化されておらず、収量確保に苦慮し、経営が不安定。

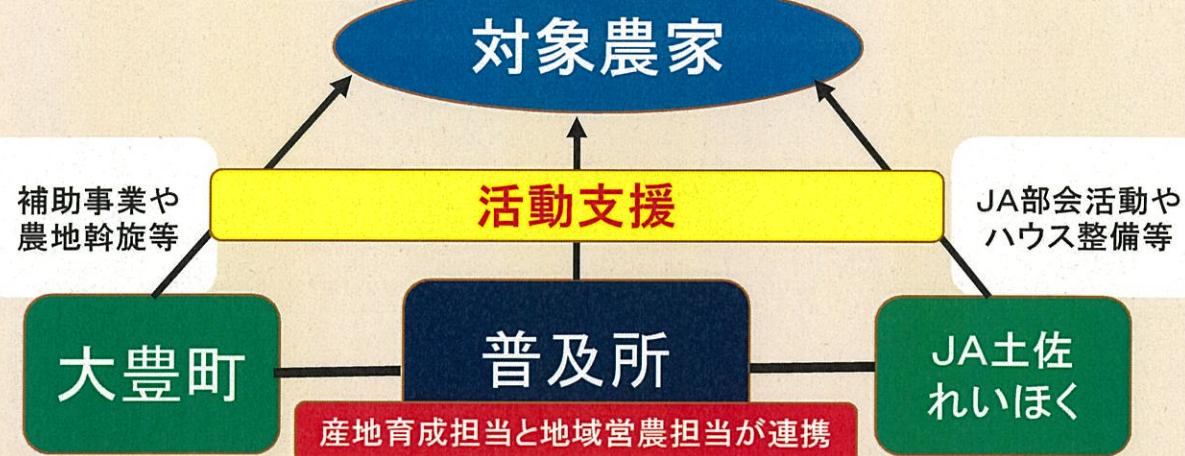
目的



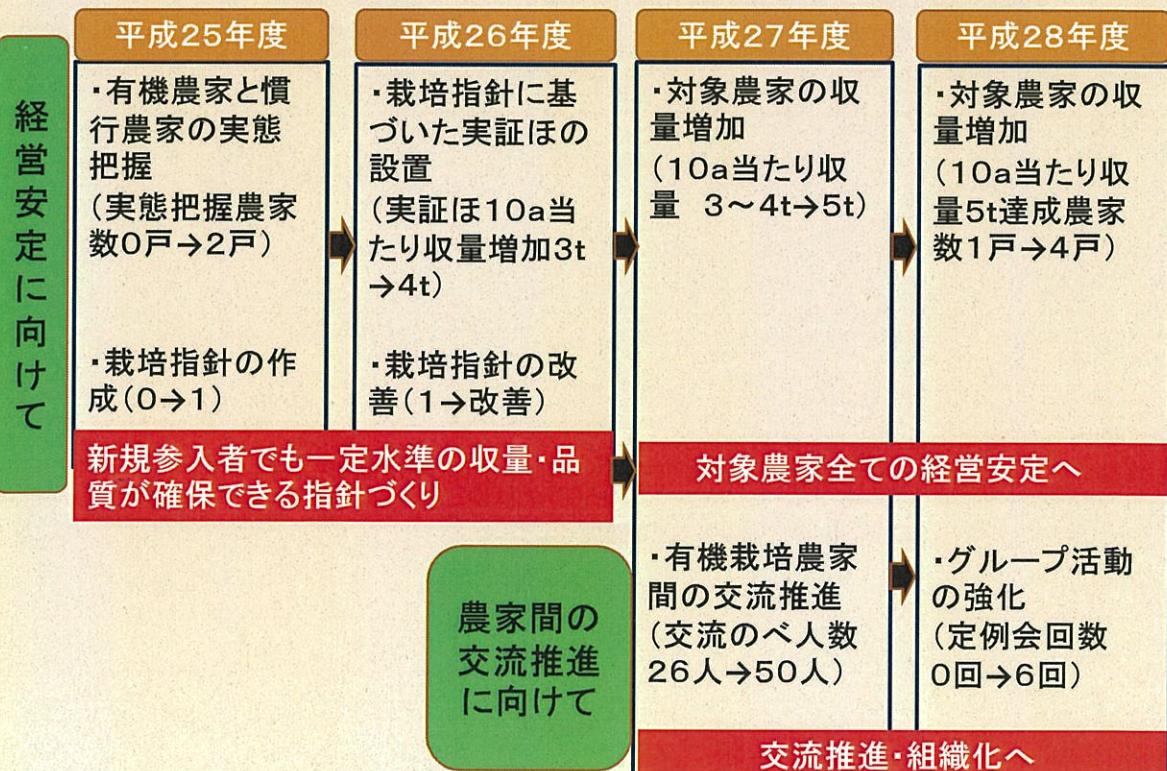
有機栽培ミニトマト農家の経営安定

平成25年度に普及計画(個別課題)に位置付け

4 活動体制



5 普及活動の目標(数値)



6 普及活動の内容

平成25年～26年度の活動

栽培指針作成に向けた実態把握

有機農家と慣行農家の栽培管理、病害虫防除等について調査

- ・基本的な栽培のポイントは慣行栽培と同じで良
- ・有機栽培では使用できる薬剤が限定 →早期防除の徹底
- ・有機農家の裂果要因→契約販売以外の販路がなかったための収穫遅れ
→出荷先拡大の必要性



栽培指針の作成と実証・実証結果に基づく改訂

基本的な栽培ポイントは、慣行の栽培技術



農薬(病害虫防除)・肥料(施肥管理)は有機JASに対応

販路の提案 「JA系統出荷」及び「JAミニトマト部会への参入」呼びかけ

普及は、つなぎ役として活動

平成27年～28年度の活動

対象農家の収量増加に向けた活動

重点とした指導内容

- ・栽培指針に準じた基本栽培技術(H27～)
- ・病害虫の早期防除(H27～)
- ・分析(植物体・土壤)データに基づく施肥管理(H28～)

指導方法

- ・個別巡回指導(月2回)
- ・現地検討会(年1～2回)
- ・栽培講習会(年1～2回)



平成27年～28年度の活動

農家間の交流推進、組織活動推進

- ・有機農業者同士での交流推進
現地検討会や意見交換する場の設定



・農家の声:「同じ意識を持つ農家が集まり、お互いに技術向上していきたい」
「トマト農家が集まり、栽培技術を研鑽しあえるような組織を作ろう！」

組織化へ

普及所が調整役となり、関係機関とも連携し支援(意見集約し、組織の目的や将来方向を合意形成、規約作成など)

支援

7 活動の結果及び成果

(1) 農家の経営安定へ向けた取組

倍増

栽培指針実証農家 (H25)3t/10a → (H27) 6t/10a

収支事例: 収量6tで売り上げ約600万、所得率は約7割
→ 経営安定化へ前進(山でもやっていける)

対象
全体

(H25) 平均収量3t/10a

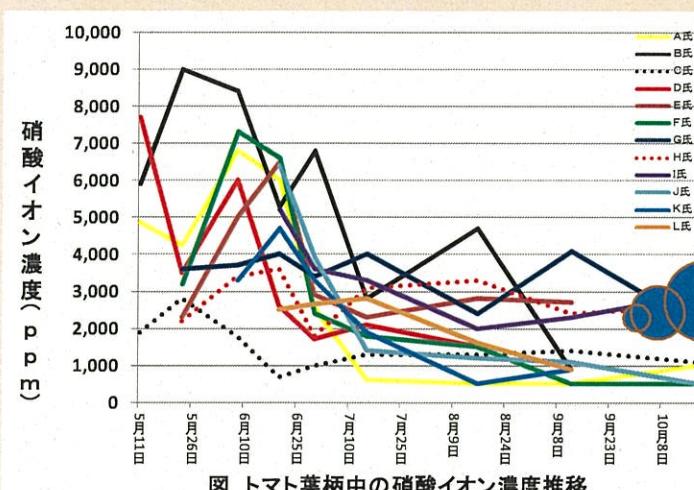
(H27) 平均収量3.8t/10a, 5t/10a以上は1戸、
4t以上は4戸

目標の5t/10a達成農家数4戸は1戸のままだが

(H28) 平均収量4t/10a, 6戸が4～5t/10a

增收につなげた普及活動のポイント

- ・栽培指針作成→管理ポイントが明確に！
- ・病害虫の早期防除徹底→有機JAS対応資材をより効果的に活用！
- ・分析データに基づく施肥管理指導→改善ポイント具体的に！



・普及所「生育中期(7月頃)から硝酸イオン濃度は低く推移している」

・農家の声「改善すべき施肥管理のポイントが分かった」

(2)「大豊とまと」設立(平成28年5月)

- ・**目的**:まずは、栽培技術の相互研鑽による収量増。将来的には個々の収量が増えたら有利販売も検討。
(現状は研究会組織。将来的には、出荷組織となることも検討)
- ・**参加農家**:大豊町トマト農家10戸(うち有機栽培トマト農家8戸)
- ・**設立後の活動**:平成28年度(先進地視察(2回)や勉強会等(6回))
* 県補助事業(みんなで有機サポート事業)も活用

設立後も普及が活動をバッタアップ

農家の声:「やっぱり一人で悩むより、仲間がいて教え合えるのは勉強になる」、「他農家の栽培状況を確認することで、自分の生育状態の良否が良く分かる」など



(3) JAミニトマト部会加入による販路拡大と部会活性化

有機栽培農家

H26年に3戸、その後2戸
計5戸が加入

(有機栽培農家)

新たな販路の確保
収穫遅れによる裂果の減少

(部会員)

若い人の参加で活気
産地の後継者ができる安心感

加入

JAミニトマト部会

- ・ほとんどが70歳～80歳代の高齢者
- ・(H18)12戸→(H25)8戸：減少傾向



(平成28年)部会役員は全て有機栽培農家に！

部会先導役として、部会活性化

8 残された課題

(1) 経営の安定化

・農家間での収量較差 → 栽培技術の向上

対応策

- ・各農家毎の問題点把握・改善事項を巡回指導
- ・分析に基づく施肥技術の改善
- ・生産者間の情報交換、先進地視察研修、緑肥利用に向けた検討などの組織活動の強化



・安定して生活できる所得の確保

対応策

- ・経営規模の拡大
- ・労働力確保
- ・出荷量が増えた場合の販路確保
- ・経費の見直し



(2)新規就農者の育成

栽培農家が研修受入、雇用

→独立就農、雇用者の増

→栽培面積、生産量増へ

指導農業士2名、研修生受け入れ農家1名を認定済

産地育成担当と地域営農(担当手)担当が連携して支援



9 活動実績の周知(広報)

地 域

- ・普及推進会議(年2回)
- ・関係機関連絡会(月1回)
- ・営農連絡会(月1回)



県域他

- ・有機農業技術部会
- ・普及活動情勢報告
- ・農業新聞(高知の普及最前線)
など

平成28年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央東農業振興センター管北農業改良普及所

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
総1 次世代につなげるれいほく園芸産地の再生	6	れいほくハ菜販売額 (10a当たりの平均収量) 三色ピーマン 米ナス シントウ 経営目標達成農家数	1.8億円 3.0t 9.0t 3.0t 5戸	1.7億円 2.4t 7.7t 2.9t 8戸	△ △ △ ○	れいほく版ISO活動、基幹3品目(三色ピーマン、米ナス、シントウ)の栽培管理、経営改善について指導した。前年より平均収量(ピーマン2.2t→2.4t、シントウ2.5t→2.9t)が増加したが、生産者の高齢化により販売額は減少した。	
総2 中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり	8	集落営農組織数 (-財)本山町農業公社 (販売額) (株)大豊ゆとりファーム (株)れいほく未来	10 構想案作成 676万円 3,850万円	10 構想案作成 736万円 3,541万円	○ ○ △	農業委員や集落リーダーを対象とした研修会の開催、規約の作成等を支援したことで、新たに集落営農組織が1組織設立された。「中山間農業複合経営拠点」の経営強化に向け、担い手の確保・育成、経営改善を支援した結果、目標をほぼ達成することができた。	
総3 農業担い手の確保・育成	5	研修生受入農家、 組織数(累計)	15	15	○	各町村と協力し、花き、野菜の基幹品目部会で「产地提案書」を作成した。土佐町、大豊町で「指導農業士12名が認定され、担い手を確保・育成する体制を整えたことで、受入農家を1戸増やすことができた。	
個1 ユズの生産拡大と産地の活性化	1	青果出荷量 青果輸出量	15t 1.0t	27t 1.2t	○ ○	产地構造改革計画に沿って優良系統への新植・改植を進め、青果出荷に適した園地整備を推進したことでの出荷量や青果輸出量を増加させることができた。	
個2 需要に応じた米づくりの推進	1	酒造好適米「吟の夢」の1等米比率	40%	34.8%	△	個別巡回、現地検討会で栽培管理を徹底したが、成熟期の長雨により収穫が遅れ、倒伏・穗発芽が多発して、1等米比率が低下した。	

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
個3 ユリの安定生産技術の確立	1 「ノーブル」秀・優品率 標準差を利用した出荷 指標	55% 1	44% 1	△ ○	病害防除コントローラー「まもるん」を活用して、切り花生産時の「葉枯病」、球根養成時の「炭そ病」防除対策に取り組んだが、養成球が小さく、切り花品質が低下した。出荷リレーの必要性と標高差の活用が有効であると認識され、標高差を活用した出荷指標が作成できた。	病害防除コントローラー「まもるん」を活用して、切り花生産時の「葉枯病」、球根養成時の「炭そ病」防除対策に取り組んだが、養成球が小さく、切り花品質が低下した。出荷リレーの必要性と標高差の活用が有効であると認識され、標高差を活用した出荷指標が作成できた。	チェック
個4 ミシマサイコの生産向上対策	1 10a当たり収量	30kg	26.8kg	△	個別巡回や現地検討会で雑草対策、摘芯方法、追肥管理や収穫調製方法を指導し、前年より収量(10kg→26.8kg)は増加したが、除草が遅れ、ヨトウムシ類が多発して、目標収量が達成できなかつた。	個別巡回や現地検討会で雑草対策、摘芯方法、追肥管理や収穫調製方法を指導し、前年より収量(10kg→26.8kg)は増加したが、除草が遅れ、ヨトウムシ類が多発して、目標収量が達成できなかつた。	
個5 有機栽培トマト農家の経営安定	1 10a当たり収量(5t) 達成農家数 組織活動支援(定 例会)	4戸 6回	1戸 8回	△ ○	植物体分析による施肥管理指導等で、前年より収量(3.8t→4.0t)は増加したが、施肥管理不足等により目標収量には届かなかつた。規約や活動計画の作成を支援したことで、相互研鑽と有利販売を目的とした「大豊どまと」が設立された。設立後、これまでになかつたグループ活動を支援した。	植物体分析による施肥管理指導等で、前年より収量(3.8t→4.0t)は増加したが、施肥管理不足等により目標収量には届かなかつた。規約や活動計画の作成を支援したことで、相互研鑽と有利販売を目的とした「大豊どまと」が設立された。設立後、これまでになかつたグループ活動を支援した。	
個6 地域活性化の拠点となる直販組織の育成	2 有望品目・品種の 決定 「さくら茶屋」利用 グループ数	葉菜2 根菜1 2グループ	葉菜2 根菜1 2グループ	○ ○	ホウレンソウ、コマツナ、サトイモを実証したことと、有望品目・品種として選定することができた。「本山さくら市」に併設した「さくら茶屋」の利用規定を策定し、表示や衛生管理研修会を開催して利用を促したことと、利用グループ数が増加した。	ホウレンソウ、コマツナ、サトイモを実証したことと、有望品目・品種として選定することができた。「本山さくら市」に併設した「さくら茶屋」の利用規定を策定し、表示や衛生管理研修会を開催して利用を促したことと、利用グループ数が増加した。	
個7 6次产业化の推進(地域内流通から県域流通へ)	1 地域外販路	2	1	△	6次产业化セミナー実践コースに参加した「本山町キムチ生産組合うれつこ」を対象に、味の改良、内容量等の改善、コスト低減について指導して商品が充実したが、販路開拓数は「よさこいふるさと市場(高知市)」か所に留まつた。	6次产业化セミナー実践コースに参加した「本山町キムチ生産組合うれつこ」を対象に、味の改良、内容量等の改善、コスト低減について指導して商品が充実したが、販路開拓数は「よさこいふるさと市場(高知市)」か所に留まつた。	

平成29年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
総1 次世代につながるれいほく園芸産地の再生	5	れいほく(ハ菜販売額 (10a当たりの平均収量) 三色ピーマン 米ナス シトウ 経営目標達成農家数 環境制御技術導入農家数	1.7億円 2.4t 7.7t 2.9t 8戸 2戸	1.8億円 3.0t 9.0t 3.0t 10戸 3戸	・園芸基幹品目(三色ピーマン、米ナス、シトウ) での現地検討会・巡回(1回/月)、反省会(各1回)、 栽培管理講習会(各1回) ・適正施肥を推進する土壤溶液分析(1回/月) ・天敵安定定着・半身萎凋病対策、夏期高温抑制 技術での実証(ほ設置)・研修会、検討会各1回) ・経営改善支援(個別面談1回/月) ・環境制御技術実証ほの設置(2か所、現地検討会 3回)	
総2 中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり	8	集落農組織数 (一財)本山町農業公社 (販売額) (株)大豊ゆとりファーム (株)れいほく未来	10 736万円 3,541万円 3,541万円	11 構想案作成 構想案実施 800万円 3,730万円	・集落農推進体制の整備(連絡会の開催1回/ 月) ・集落代表者への意識啓発・意向把握(面談1回/ 月) ・中山間農業複合経営拠点の事業計画実践・経営 強化支援(運営委員会1回/月)	
総3 農業担い手の確保・育成	6	研修生受入農家、 組織数(累計) (新規研修生) (株)大豊ゆとりファーム (株)れいほく未来	15 0名 1名 0戸	16 3名 2名 5戸	・新規就農希望者受入体制(產地提案書、指導農 業士)の充実、募集・確保支援(JA部会、町村担い 手協議会の開催1回/月) ・新規就農者への経営安定支援(巡回指導、面談1 回/月) ・中山間農業複合経営拠点における研修生の受 入体制の充実、募集・確保支援(町村連絡会1回/2 月、農業基礎講座の開催5回) ・有機栽培の產地育成支援(面談、巡回指導1回/2 月)	
個1 ユズの生産拡大と産地の活性化	1	青果出荷量 青果輸出量	27t 1.2t	30t 1.5t	・産地構造改革計画の実践(產地協議会の開催1 回/3月) ・優良系統母樹園の設置(1か所) ・病害虫防除の徹底、省力化技術・出荷期間の延 長の実証(個別指導、実証調査、講習会、反省 会1回/月)	

課題名								チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主要な手法	チェック欄
個2 酒米の高品質栽培の推進	1	酒造好適米「今夢」の1等米比率 特別栽培米の生産量	0%	50%	7t	・基本技術の徹底(個別巡回、現地検討会1回/月) ・特別栽培米に応じた栽培特性の周知及び栽培管理の徹底(現地検討会1回/月)							
個3 花きの安定生産技術の確立	1	「ノーブル」秀・優品率 標高差を利用した出荷指標の更新	44%	55%	更新	・病害防除コントローラー「まもるん」の栽培実証(1か所) ・標高差による栽培環境と切り花品質、倒花日数調査(3か所)							
個4 有機栽培トマト農家の経営安定	2	10a当たり収量5t 達成農家数 組織活動参加率	1戸	4戸	90%	・植物体分析・土壤溶液分析(1~2回/月) ・相互研鑽・情報交換(現地検討会2回、先進地視察研修1回、定例会2回、消費地動向調査1回)							
個5 直販野菜の生産拡大	1	担い手組織 夏期・冬期の有望品目	0	1	5	・野菜栽培研究会の設立・活動計画の作成(実証ほの設置・調査、講習会2回)							
個6 6次産業化の推進	1	地域外販路数 販売額	1	2	50万円	・販売戦略の策定(チーム会4回) ・チェックシートを活用した衛生管理指導(4回)							

平成29年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

(○評価会で発言、●評価用紙に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担 ○11名の職員で広い範囲をカバーできるのか。もっと人数が必要でないか。
	・活動の進ちょく 管理の体制 ●毎月のチーム会、職員会で、随時情報共有していることで連携が保たれており評価できるが、意見交換も取り入れたほうが良い。
	・普及指導員の資質向上の取組 ●新任者対象の○J.Tなど適正に実施されている。また、職場研修に民間講師を取り入れるなど評価できる。 ●I.C.T活用も積極的に取り組まれている。
普及指導活動の計画	・普及課題の設定 ○有機栽培を掲げて取り組んだ事例は少ないのでモデル的な課題である。 ○U.Iターン者の新規就農者の指導にも積極的に取り組まれている。今後、産地提案型が重要になってくる。就農希望者が、高知に何を求めて来ているのか良く聞いて農業を提案してほしい。 ●普及活動の目的に沿ったものとなっている。
	・対象の設定
	・関係機関との連携 ○有機栽培農家の交流の場、組織活動推進のパイプ役となって良く取り組んでいる。今後もつなぎ役として活動して欲しい。 ○一つの目的に対して、町、JAと連携し、販路拡大、部会の活性化ができている。進捗管理も大変であったと思う。
	・目標設定 ●計画的な活動ができるように、中期目標が立てられている。
普及指導活動の成果	・活動の経過 ○有機栽培農家に対して指針を作成するなど、ポイントを絞った指導ができている。
	・実績（活動の結果） ●新規就農者に対しサポートができ、定着に実績が残せている。 ●目標達成できなかった農家のケアをして欲しい。
	・成果（目標達成状況） ●活動成果を定量的にできるとさらに良い。
	・結果の周知
外部評価、総合所見等	
○活動当初からの普及活動の動きを示してもらえたので、理解しやすかった。 ○中山間地の産地提案型農業のモデル地域として今後に期待したい。 ●米のブランド化など、農業者のやる気づくりなど、活動の進捗状況がわかった。 ●対象の設定、数値の根拠があいまいな課題がある。	